

LECTURE

講演会報告



- 第3回文学部(英文学科)講演会
「字幕は翻訳にあらず?!
～映画翻訳裏話～」
- 字幕翻訳家 太田直子氏
- 10/27 長久手キャンパス

太田直子先生は、天理大学ロシア学科を卒業後、早稲田大学大学院在学中、アルバイトをきつかけに字幕翻訳家になりました。『ポテイガード』や『シュレック2』を含め100本以上の作品を手掛けておられます。

「1秒4文字」「句読点は使わない」「一つの字幕は1行か2行」といった映画字幕の基本ルールについて、実際に先生が手掛けられた映画作品を具体例として使って明快な解説がありました。一語一語にこだわりをもつ研究者は、逆に字幕翻訳には向かないのではないかと、いろいろ指摘から、普通の翻訳と字幕翻訳との違いが窺えました。また仕事として字幕翻訳をする場合、非常に過酷な状況であることについても言及がありました。

翻訳家を希望する学生にとっても、それ以外の学生にとっても、実際に英語を生かして活躍されておられる先生の仕事内容への関心も高く、講演後、活発な質疑応答がなされました。



ハラスメント防止委員会主催の研修会を、東京ゆまにて法律事務所の井口博弁護士を講師に招き開催しました。講演では、近年のパワハラ認定事例が豊富な資料とともに紹介されましたが、これは、私たち大学で働く者にとってもこの問題が無縁でないことを再認識させる、示唆や警句に富むものでした。

- ハラスメント防止委員会主催研修会
- 東京ゆまにて法律事務所 井口博氏
- 10/15 長久手キャンパス



職場の中の「人間関係の軌跡」と「ハラスメント」との間には、境界線が引かれます。ではどこが境界なのか。今回学んだことは、ハラスメントで「ない／ある」という認定基準が、常に更新されているということですね(例えば、2009年4月の厚労省の労災基準見直し)。こうした啓発と学習が、継続的に行われなくてはならない理由をここに見ることが出来ます。

研修の途中、講師が何度も強調していた「何よりも職場環境づくりが大切」という言葉が印象的です。職場構成員相互の取り組みによって、互いにとって働きやすい環境が築かれていく。その過程でのずから不合理的な行使が抑制されるような雰囲気づくりがなされる、これが何よりです。働く環境の社会的転換期である今日において、職場環境は今後どうあるべきかについても考えさせる、有意義な研修会でした。

- 第2回人間情報学部講演会・第5回文学部講演会
「電子書籍がもたらすもの
～今後広がるハイブリッド出版～」
- 大日本印刷(株) 電子出版ソリューション本部
島田周氏
- 11/17 長久手キャンパス



島田周氏は、大日本印刷(株)の電子デバイス研究所の研究員として活躍後、その研究内容を活かすビジネス部門への異動を希望し、そのためにビジネススクールで研修され、現在は電子出版ソリューション本部の事業企画推進室のエキスパートとして活躍されています。

現在の大日本印刷は印刷業でありながら、主婦の友社(出版社)、丸善八重洲ブックセンター、ジュンク堂(大規模書店)、b k1(オンライン書店)を傘下に入れハイブリッド出版を進めています。その事業を推進する立場から、ハイブリッド出版(従来の出版と電子出版の両立)と、ハイブリッド

型書店(リアル書店とオンライン書店の両立)による新たな出版流通と電子書籍市場の期待できる要因として、①プラットフォームを持った企業であるアマゾンやグーグルの参入、②インフラの充実として電子書籍用端末や高速通信回線の整備、③新しい読書環境の成立などを挙げながら、今後の電子書籍による変化についても言及されました。

フロアからは、ハイブリッド出版における課題など多くの質問が出ましたが、丁寧に回答され、講演後も学生が質問の列を成すほどでした。講演の内容と用意されたパワーポイントの素晴らしさに一同感激した次第です。学部生にとって、大手企業の最前線で活躍する講師から話を聞けることは、今後の進路検討に大いに役立つものと考えています。

- 第4回文学部(英文学科)講演会
「ハンナのかばん～悲しみを希望に変えて～」
- NPO法人ホロコースト教育資料センター代表
石岡史子氏
- 11/4 長久手キャンパス



石岡史子先生はイギリススリズ大学院で南北問題や女性の人権、教育問題を学ばれました。現代を生きる日本の子どもたちに、ホロコーストを教材として、命や人権

を尊ぶ心や思いやりある心を育ててほしいと願い、全国の学校で訪問授業をしております。ヒトラー独裁政権下のドイツで国家政策として行われたユダヤ人大虐殺について、ホロコーストの中で13才の短い生涯を閉じたチエコ生まれのユダヤ人少女ハンナブレ

イデイに焦点を当ててお話しいただきました。殺害された600万人のユダヤ人のうち、150万人が子どもだったという衝撃的な事実。言葉では表現できない惨劇。こうした重い歴史について、一人の少女の短く悲しい、しかしけなげな人生を象徴する「ハンナのかばん」を題材に描き出していく石岡先生の語り口からは、このような悲劇を二度と繰り返してはならないという確たるメッセージが伝わってきました。

講演後、学生からも積極的に質問がなされ、人種差別や戦争の無益さと、希望を持つて生きることの大切さを考える貴重な機会となりました。



- 教育学会特別講演会
「国際「対話」能力を育てるために
～実践活動から学ぶ～」
- 本学文化創造学部長 榎田勝利先生
- 11/24 長久手キャンパス

国際交流、国際ボランティアが専門の榎田勝利先生による特別講演会を開催しました。

日常生活の国際化と世界の子どものとらえ方、新しい現実に対して、人は何ができるのか、先生ご自身のアフリカ植林事業、カンボジアへ自転車を送る運動、書き損じ葉書による世界寺子屋運動等、数々の活動と成果をお話いただき、共に、米国のNPOインターンシッププログラム等、先生の薫陶を受けた本学卒業生の国際的活躍も紹介いただきました。

ボランティアとは意思を形にする社会のための公的行為であり、国際対話能力を育てるためには外国語の運用能力に加え、相手の価値観の理解や日本文化の説明能力等も必要である。インターナショナルリストは人間そのものが魅力的で、響き合う心と語るべきものをもっている。重要なことは他者の痛みを対等な関係から共有する「共感」であり、違いを共に生きるための共通基盤作りである。など国際ボランティアの神髄をお話しくださいました。

- 言語コミュニケーション学科講演会&フォーラム
「社会に求められる人材～就職戦線を通して～」
- (株)毎日コミュニケーションズ 鷺見千尋氏
- 12/18 長久手キャンパス



いずれも、在学生たちはメモを取りながら熱心に聴いていました。フォーラムの後、学生たちは二人の卒業生に質問していました。



本年度は、本校の卒業生で易経研究家の竹村亜希子さんを講師としてお迎えし、2000人を超える



- 高等学校・中学校PTA講演会
「易経から学ぶチャンスのつかみ方」
- 易経研究家 竹村亜希子氏
- 11/18 センテナリーホール

講演は最初、女性の関心が高い「若さとちよつと美貌の秘訣」について話され、参加者は熱心に聞き

入っていました。本題の「易経」は古代中国の占筮(せんぜい)・細い竹を使用する占いについて著した書で、内容は大変難しいのですが、様々な例を挙げて分かりやすく説明していただきました。春夏秋冬、世の中は常に変化しているが、その変化をしつかり見届け、その準備を怠らないことが大切だと話されました。

第1部の講演会では、毎日コミュニケーションズの鷺見氏が、就職前線の情報や就職活動に関するアドバイスを実例を挙げながら分かりやすく説明。「就職とは何か」という傾向があることを企業の採用動向として説明されました。

また、学生に今から意識してもらいたいこととして、①自分を知らないと、②仕事を知ることの2点を挙げられ

第2部はフォーラムで、企業で活躍中の二人の卒業生に話をしてもらいました。日本通運(株)に勤務する松浦奈々絵さんは、大学で頑張ったことを就職活動に活かして、それを今の職場に活かしていること。(株)新東通信で働く豊田麻美さんは、ハッピーな気持ちで仕事ができるような工夫を先輩たちを紹介しました。



- ビジネス学会講演会
「我究館館長 坂本章紀先生による
スペシャルセミナー」
- 我究館館長 坂本章紀氏
- 11/11 星が丘キャンパス

「自分の『コア』に沿った就職先を見つけることが大切」というの

毎年多くの学生を有名企業に内定させている、我究館の館長・坂本章紀氏をお招きしました。

周りの人がまだ知らない芸能ネタを教えてあげることだったり、友人の日直の仕事を手伝ってあげることだったり、人それぞれです。その自分だけのHAPPYを実現させてくれる企業が、卒業後の自分を生かせる企業ではないかということでした。

- 文学部国文学科企画・国文学会運営
第6回文学部講演会「近代メディアと文学」
- 横浜市立大学教授 山田俊治氏
- 12/3 長久手キャンパス



山田先生のご専門は、日本近代文学・メディア史学。「有島武郎(作家)の生成」(小沢書店)や、「大衆新聞がつくる明治の日本」(NHKブックス)などの著書があり、特に近代初期のメディア史については、学会を常にリードするような研究を続けていらつやいます。

今回のお話では、明治末から大正にかけて、急速な成長を遂げた本(「NHKブックス」などの著書があり、特に近代初期のメディア史については、学会を常にリードするような研究を続けていらつやいます。